

コンピュータースクールミシン

# 取扱説明書

ブラザーエリートAT310直線

必ずお読みください

## 1 めう前の準備

めう前に必要な準備を説明します。

## 2 めい方の基本

基本のめい方と上手にめうコツなどを説明します。

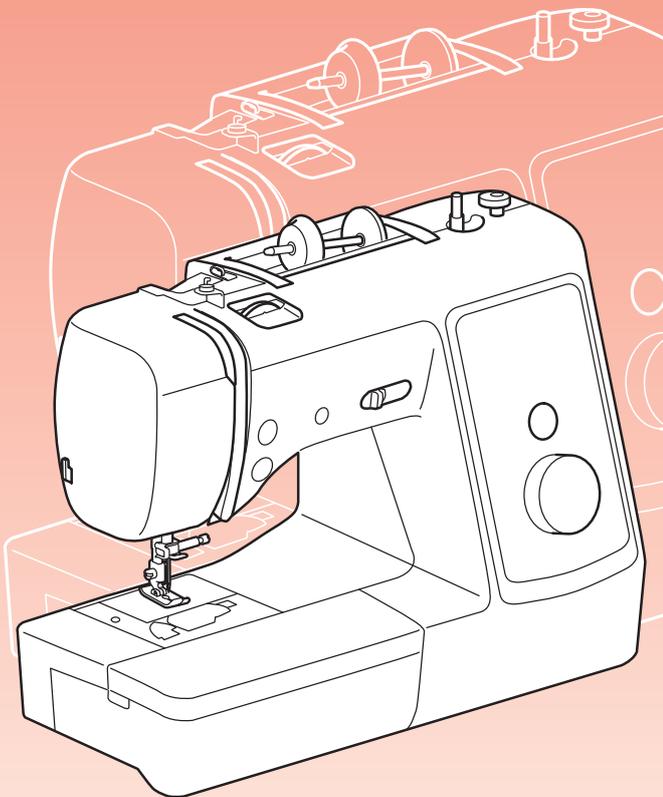
## 3 その他のめい方

その他のめい方とその使い方を説明します。

## 4 付録

ミシンのお手入れ方法と困ったときの対処方法などを紹介します。

必要に応じてお読みください



- ご使用になる前に必ず本書をお読みにになり、正しくお使いください。
- 本書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。



## はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。  
 お使いになる前に「安全にお使いいただくために」をよくお読みいただき、取扱説明書で機能や正しい使い方を十分にご理解のうえ、末永くご愛用ください。  
 また取扱説明書は、読み終わったあとも、いつでもご覧になれるところに保管してください。

## 安全にお使いいただくために

取扱説明書および本製品で使われている表示や絵文字は、本製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。  
 その表示や意味は次のとおりです。

<b>警告</b>	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
<b>注意</b>	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

取扱説明書で使用されている絵文字の意味は次のとおりです。

- |   |  |
|---|--|
|  特定しない禁止事項       |  分解してはいけません |
|  水に濡らしてはいけません    |  特定しない義務行為  |
|  電源プラグを抜いてください   |  特定しない危険通告  |
|  感電の危険があります      |  火災の危険があります |
|  針の下に指を入れないでください |  |

本製品を安全にお使いいただくために、次の事柄を守ってください。

<b>警告</b>	
 	一般家庭用電源 AC100V の電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
	以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 火災・感電・故障の原因となります。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・使用中に停電したとき ・接触不良、断線などで正常に動作しないとき ・雷が鳴りはじめたとき
<b>注意</b>	
 	延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
 	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
	電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。
	電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
 	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物をのせたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめてお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
	長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。
 	直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。ミシンの使用温度は 0 ~ 40 °C です。ミシン内部の温度が上がったり、ミシン本体や電源コードの被膜が溶けて火災・感電の原因となります。
 	火の気のあるもののそばでは使用しないでください（火の消えていないたばこ、ろうそくなど）。火災の原因となります。
 	野外でのご使用は避けてください。雨などが降り、本体が濡れて感電の原因となります。また濡れたときはお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。

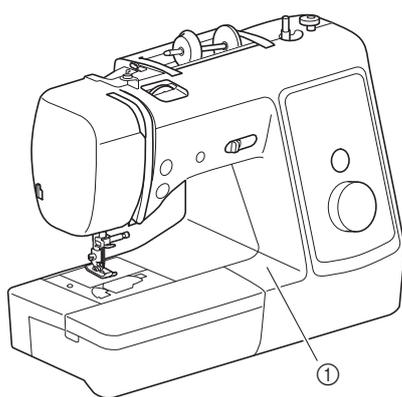
	温度や湿度の高い所でのご使用や保管は避けてください。
	スプレー製品などを使用する部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどや火災の原因となります。
	ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてけがをする原因となります。ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。
	ミシン本体の換気口をふさがないでください。換気口は、必ず壁から 30cm 以上離して使用してください。また、換気口やフットコントローラーに糸くずやほりかたがたまらないようにしてください。火災の原因となります。
	ミシン本体の上に花びんや水のいった容器を置くなどして、ミシン本体に水をこぼさないでください。万一、内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	ミシン本体の換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。万一、異物が入った場合は、使用をやめてお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
	ミシン本体の重さは約 6.2kg あります。ミシン本体を持ち運ぶ際は急激または、不用意な動作をしないでください。腰や膝を痛める原因となります。
	以下の場所に設置、保管をしないでください。故障の原因になります。 ・温度が著しく高くなる場所 ・温度が著しく低くなる場所 ・急激に温度が変化する場所 ・湿気、湯気の多い場所 ・火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所 ・屋外や直射日光の当たる場所 ・ほこり、油煙の多い場所
	ミシン本体は、必ずハンドルを持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたりすべて落とししたりして、けがの原因となります。
	ミシン本体には取扱説明書に記載されている付属品を使用してください。他の部品を使用するとけが・故障の原因となります。
	お客様ご自身での分解、修理および改造は行わないでください。火災・感電およびけがの原因となります。指定以外の内部の点検・調整・掃除・修理は、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご依頼ください。

	取扱説明書に記載されている整備は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。けが・感電の原因となります。
	<b>ミシン操作中は、針の動きに十分ご注意ください。また、針、プーリー、てんびんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。</b> けがの原因となります。
	針や押えなどの交換およびそのほかの機能に関する使用については、取扱説明書の指示どおりに正しく行ってください。
	縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。けが・針折れの原因となります。
	<b>針の下などに指を入れないでください。</b> けがをするおそれがあります。
	上糸、下糸などに関する操作については、取扱説明書の指示どおりに正しく行ってください。取り扱いを誤ると、縫製中に糸がらみなどが発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。
	曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。
	万一、ミシン本体を落としたり、破損したり、故障したりした場合は、ただちに使用をやめてお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	万一、煙が出ている、異臭がする、異常音がするなどの状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。
	本製品が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。
	お子様の玩具として使用しないでください。お子様が使用するときや、お子様の近くで使用するときは、お子様がけがをしないよう十分注意してください。
	フットコントローラーの上に物をのせないでください。けが・故障の原因となります。

- このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。  
This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.  
職業用としてご使用になった場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。
- 仕様および外観は品質改良のため、予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたら「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
- 本機をご使用になる方（お子様を含む）が、身体／知覚／精神的能力になんらかの障がいを持つ場合、あるいは経験や知識が十分でない場合には安全を保証できる責任者の監視の下でのみ本機を使用してください。
- お子様が使用するときには、玩具として使用しないよう、十分な監視の下で使用してください。

## 警告表示について

ミシン本体には下記の警告が表示されています。警告表示の注意事項を守って作業を行ってください。また、警告ラベルは、はがれたり、傷ついたりしないよう十分注意してください。万一ラベルがはがれていたり、読みとれなくなった場合は速やかに「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。



①



## 商標

App Store は、Apple Inc. のサービスマークです。Android、Google Play は、Google Inc. の商標です。これらの商標の使用は、Google 使用許諾の対象となります。

## 目次

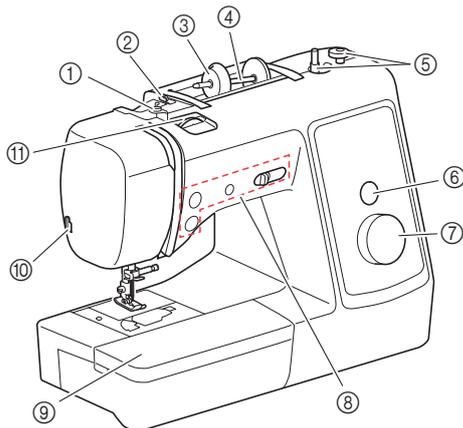
<b>第1章</b>	<b>ぬう前の準備</b>	<b>5</b>
	各部の名称 .....	5
	付属品 .....	6
	別売品 .....	6
	電源の入れ方 .....	7
	下糸の準備 .....	8
	ポピンを取り出す .....	8
	下糸を巻く .....	8
	下糸をセットする .....	10
	上糸通し .....	12
	上糸を通す .....	12
	布地と糸の種類による針の使い分け .....	14
	針の交換 .....	15
	正しい針の見分け方 .....	15
	針の交換 .....	15
	押えの交換 .....	16
<b>第2章</b>	<b>ぬい方の基本</b>	<b>17</b>
	ぬってみましょう .....	17
	ミシンかけの手順 .....	17
	基本的なぬい方 .....	17
	返しぬいをする .....	19
	ぬい目の長さを調節する .....	19
	上手にぬうためのヒント .....	20
	上手にぬうコツ .....	20
	下糸を引き出してからぬう .....	20
	糸調子を調節する .....	21
	布端から一定の距離をぬう .....	22
	いろいろな素材をぬう .....	22
<b>第3章</b>	<b>その他のぬい方</b>	<b>23</b>
	ファスナーつけ .....	23
	筒ものをぬう .....	24
<b>第4章</b>	<b>付録</b>	<b>25</b>
	お手入れのしかた .....	25
	注油に関して .....	25
	ミシンを保管するときのご注意 .....	25
	かまの掃除 .....	25
	困ったとき .....	27
	上糸がつる .....	27
	布裏で糸がからまる .....	27
	糸調子が合わない .....	28
	布がミシンに入り込んでとれなくなった .....	29
	ポピンの下に糸がからまってしまった .....	31
	こんなときは .....	31
	電子音について .....	34
	設定を変更する .....	34
	仕様 .....	35
	索引 .....	36

# 第1章 ぬう前の準備

## 各部の名称

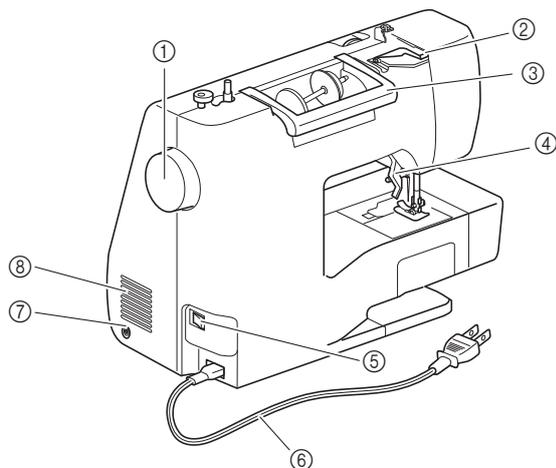
### ■ 主要部

#### □ 正面



- ① 下糸巻き案内 (P.9)
- ② 糸案内 (P.9)
- ③ 糸こま押え (P.8)
- ④ 糸たて棒 (P.8)
- ⑤ 下糸巻き装置 (P.9)
- ⑥ ぬい目長さ表示窓 (P.19)
- ⑦ ぬい目長さ調節ダイヤル (P.19)
- ⑧ 操作スイッチとスピードコントロールレバー (P.5)
- ⑨ 補助テーブル (P.6)
- ⑩ 糸切り (P.18)
- ⑪ 糸調子ダイヤル (P.21)

#### □ 右側面・背面

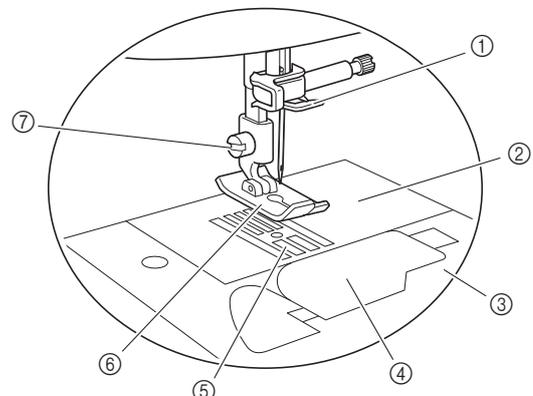


- ① プーリー  
ぬい目を1針ずつ送ったり、針を上げ下げしたりするときに手前に回します。
- ② 糸案内カバー (P.9)
- ③ ハンドル  
ミシンを持ち運ぶために使用します。
- ④ 押えレバー  
押えを上げ下げします。

- ⑤ 電源スイッチ (P.7)
- ⑥ 電源コード (P.7)
- ⑦ フットコントローラージャック (P.18)  
※ フットコントローラーは別売品です。
- ⑧ 換気口

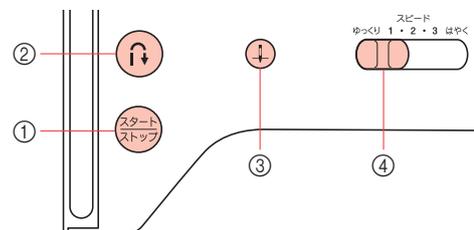
モーターの換気用の穴です。ミシンを使用しているときはふさがらないでください。

### ■ 針と押え部分



- ① 針棒糸かけ (P.13)
- ② 針板 (P.22)
- ③ 針板カバー (P.25)
- ④ 針板ふた/内かま (P.10、26)
- ⑤ 送り歯  
ぬう方向に布地を送ります。
- ⑥ 押え  
布地を押さえます。ぬい方に合った押えを取り付けてください。
- ⑦ 押えのとめネジ (P.16)

### ■ 操作スイッチ



- ① スタート/ストップスイッチ (スタート/ストップ)  
このスイッチを押すと、ミシンをスタートまたは停止します。
- ② 返しぬいスイッチ (返し)  
このスイッチを押すと、返しぬいをします。(P.19)
- ③ はり上/下スイッチ (上/下)  
このスイッチを押すと、針の位置の上下が切り替わります。2回押すと、1針ぬいができます。
- ④ スピードコントロールレバー  
このレバーを左右に動かして、ぬう速さを調節します。

## 付属品

箱を開いたら、付属品が揃っていることを確認してください。不足しているときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

補助テーブルのふたを開けると、付属品収納スペースがあります。

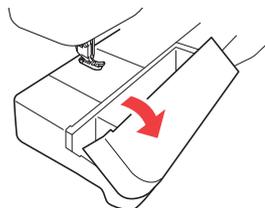


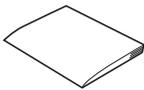
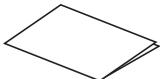
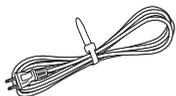
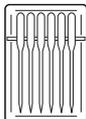
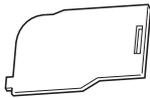
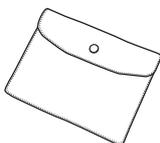
イラスト	品名
	説明
	<b>ハードケース</b> ミシンを収納するときに使用します。
	<b>取扱説明書</b> 本書です。大切に保管してください。
	<b>早見表</b> 下糸の準備から上糸を通すまでの手順が確認できます。
	<b>電源コード</b> 家庭用電源コンセント（AC 100V）に接続します。
	<b>糸こま押え</b> 糸こまをセットするときに使用します。 （ミシンに取り付けてあります）
	<b>ドライバー</b> ミシン針を交換するときなどに使用します。
	<b>ネジ回し</b> ミシン針を交換するときなどに使用します。
	<b>ミシンブラシ</b> かまなどの細かい部分のほこりを取り除くときに使用します。
	<b>直線専用押え</b> 直線専用の押えです。 （ミシンに取り付けてあります）
	<b>片押え</b> ファスナーつけのときに使用する押えです。

イラスト	品名
	説明
	<b>ボビン&lt; 4 個&gt;</b> 下糸を巻いて使用します。 （1つはミシンに取り付けてあります）
	<b>ミシン針（HA×1）</b> 4種類（計6本）の針が付属しています。糸の太さや布地によって使い分けます。詳細は「針の種類と使い分け」（→ P.28）で説明します。  黄 # 11 （2本） 赤 # 14 （2本） 緑 # 16 （1本） ニット用金 # 11 （1本）
	<b>針板ふた&lt; 3 個&gt;</b> ボビンをセットするときに外します。 （1つはミシンに取り付けてあります） 紛失したときのために、予備として2個付属しています。
	<b>付属品バッグ</b> 押えなどの付属品を収納します。

## 別売品

別売品・部品についてはお買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にお問い合わせください。

## ■ フットコントローラー

イラスト	品名
	説明
	ミシンを足で操作するときに使用します。 （モデル名：FC32291、型式：MODEL T）

### ☑ お知らせ

- 仕様は予告なしに変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

# 電源の入れ方

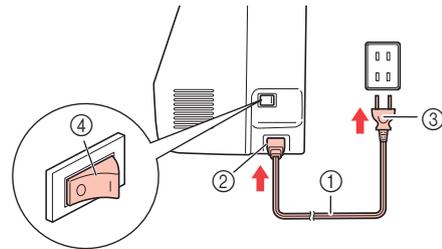
## ⚠ 警告

- 一般家庭用電源 AC100V の電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 次のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。
  - ミシンのそばを離れるとき
  - ミシンを使用したあと
  - 使用中に停電したとき
  - 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
  - 雷が鳴りはじめたとき

## ⚠ 注意

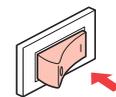
- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
- 長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。

- 1 電源スイッチが「切」になっている（「○」側を押してある）ことを確認します。
- 2 電源コードを本体右側の電源ジャックに差し込み、電源プラグを家庭用電源コンセント（AC100V）に差し込みます。



- ① 電源コード
- ② 電源ジャック
- ③ 電源プラグ
- ④ 電源スイッチ

- 3 ミシン本体右側面の電源スイッチの右側（| 側）を押して「入」にします。



→ 電源が入り、ライトが点灯します。針や送り歯が動いて音がすることがありますが、故障ではありません。

- 4 ミシンの電源を切るには、電源スイッチの左側（○側）を押して「切」にします。

## 下糸の準備

### ⚠ 注意

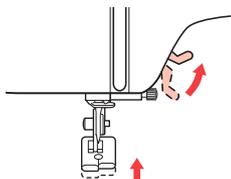
- 付属のボピンは本機純正品です。必ず純正ボピンをご使用ください。ボピンの高さは11.5mmです。違うボピンを使用すると、ミシンが破損するおそれがあります。
- 過去に製造された純正ボピンには「b」マークが刻印されていないことがありますが、高さ11.5mmの純正ボピンである場合、使用できます。

### ボピンを取り出す

ボピンがミシンにセットされている場合、取り出します。

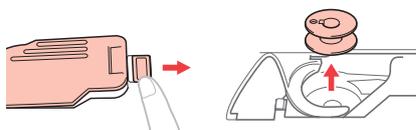
(出荷時にはセットされています。)

- 1 電源を切ります。
- 2 押えレバーで押えを上げます。

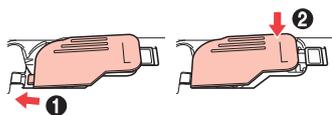


- 3 針板ふたを取り外し、ボピンを取り出します。

針板ふたは、横のつまみを右側へスライドさせて取り外します。

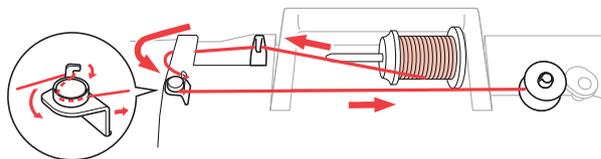


- 4 針板ふたを元に戻します。  
針板ふたのタブを針板カバーに差し込んでから、針板ふたの右側を上から軽く押して取り付けます。



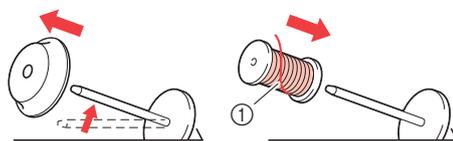
### 下糸を巻く

下糸用の糸をボピンに巻きます。



- 1 糸こま押えを取り外し、下糸用の糸こまを糸たて棒に取り付けます。

糸こまを糸たて棒に差し込み、糸が正面下から出るようにセットします。正しくセットしないと、糸が糸たて棒にからまるおそれがあります。



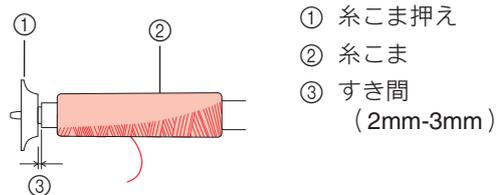
- ① 糸が正面下から出るようにセットします。

- 2 糸こま押えを糸たて棒に差し込みます。

糸こま押えのすぼんでいる面を外側にして、奥までしっかりと差し込みます。



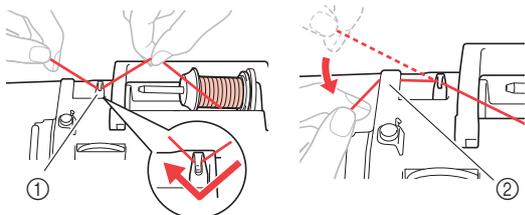
細巻き糸こまを使用する場合は、糸こま押えの向きを逆にして差し込んでください。



### ⚠ 注意

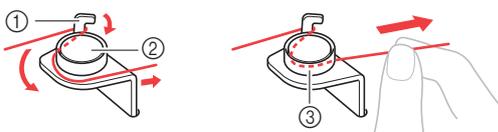
- 糸こまや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、針折れの原因となります。

- 3 糸を糸案内のツメ部分にかけてから、糸案内カバーの奥から手前へかけます。



- ① 糸案内  
② 糸案内カバー

- 4 下糸巻き案内のツメに糸をかけて、皿の下に通します。

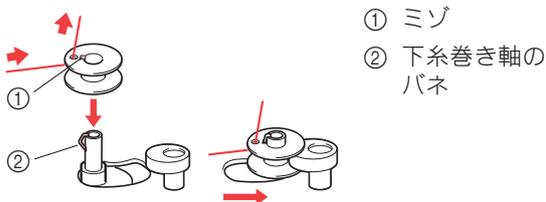


- ① 下糸巻き案内のツメ  
② 皿  
③ しっかり奥まで入れるように引っ張ります。

🙏 お願い

- 糸が皿の下を確実に通っていることを確認してください。

- 5 ボビン上面の穴に糸を内側から通し、ボビンのミゾと下糸巻き軸のバネの位置を合わせてセットします。その後、カチッと音がするまでボビンを右側に押しします。

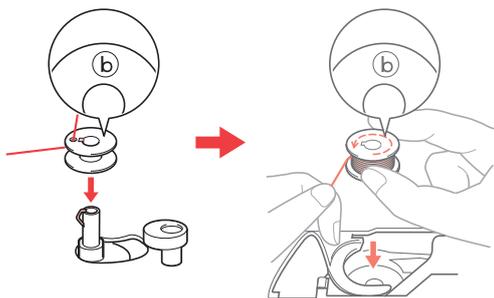


- ① ミゾ  
② 下糸巻き軸のバネ

📌 お知らせ

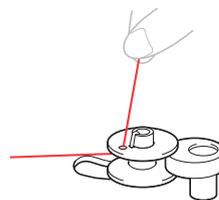
- ボビンの向きを確認しておく、後の手順で参考になります。同じ向きでボビンをかまにセットする (P.11 手順 6) ことで、正しい巻き方向で下糸がセットされます。

本機付属ボビンの片面には「b」マークが刻印されていますので、参考にご使用ください。



- 6 電源を入れます。

- 7 糸端を持ってスタート/ストップスイッチを「ピッ」と音がするまで長押しします。



⚠ 注意

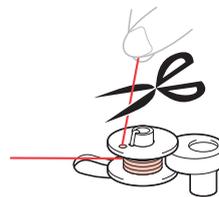


- 糸は少し長めに引き出し、まっすぐ上に伸ばして持ってください。糸が短かったり、たるんでいたたり、斜めに持っていたりすると、糸がボビンに巻き込まれ、ケガの原因となります。

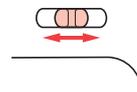
- 8 少し巻いて、持っている糸が巻き糸で保持されたら、スタート/ストップスイッチを「ピッ」と音がするまで押します。

→ ミシンがストップします。

- 9 ボビンの穴から出ている余分な糸を切ります。



- 10 スピードコントロールレバーで下糸を巻く速度を調節します。右に動かすと速く、左に動かすと遅くなります。



- 11 スタート/ストップスイッチを「ピッ」と音がするまで長押しして、下糸巻きをスタートします。フットコントローラーを接続している場合は、フットコントローラーを踏み込みます。

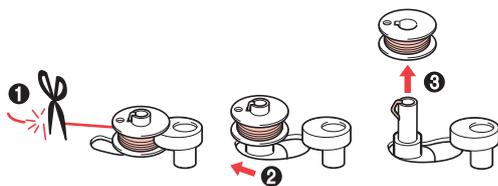


- 12 ボビンの回転がゆっくりになったら、スタート/ストップスイッチを「ピッ」と音がするまで押して、下糸巻きを停止します。フットコントローラーを接続している場合は、フットコントローラーから足を離します。

**⚠ 注意**

- ボビンの回転がゆっくりになったら、必ず下糸巻きを停止してください。無理に続けると故障の原因となります。

- 13 糸を切り、下糸巻き軸をカチッと音がするまで左へ戻し、ボビンを取り外します。



- 14 スピードコントロールレバーを元の位置へ戻します。

- 15 糸こまを糸たて棒から外します。

## 下糸をセットする

下糸を巻いたボビンをかまにセットします。ボビンをかまに入れ、針板カバーのミゾにそって糸を通してセットするだけで、すぐにぬい始めることができます（下糸を引き出す必要はありません）。

### 📌 お知らせ

- ぬい始めの糸の始末をしたいときは、あらかじめ下糸を引き出しておきます。詳細は、「下糸を引き出してからぬう」（P.20）を参照してください。

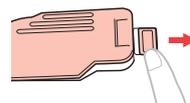
**⚠ 注意**

- 必ず正しく巻かれた下糸を使用してください。巻き方が悪い下糸を使用すると、針折れや糸調子不良の原因となります。

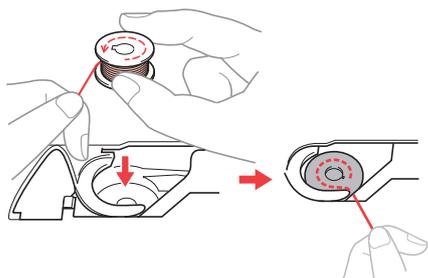
O

- 下糸をセットするときや交換するときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されるとミシンが作動してけがの原因となります。

- 電源を入れます。
- ⊕（はり上/下スイッチ）を1回または2回、「ピッ」と音がするまで長押しして、針を上げます。
- 電源を切ります。
- 押えレバーを上げます。
- 針板ふたの横のつまみを右側へスライドさせ、針板ふたを取り外します。



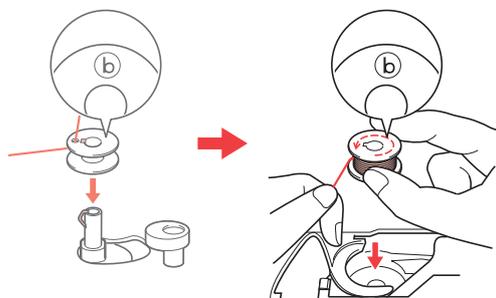
- 6 糸が左巻きになるようにしてボビンをかまにセットします。



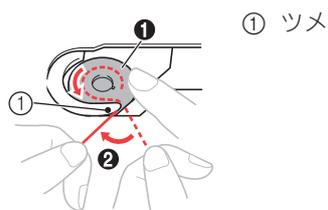
**お知らせ**

- 下糸巻き軸セット時 (P.9 手順 5) と同じ向きでボビンをセットすると、左巻きになります。

本機付属ボビンの片面には「b」マークが刻印されていますので、参考にご使用ください。



- 7 右手でボビンを軽く押さえながら (1)、左手で巻き終わりの糸を針板カバーのツメにかけます (2)。

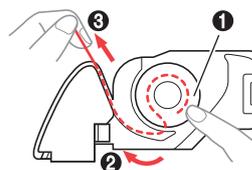


**注意**



- ボビンは必ず指で押さえ、正しい方向から糸が出るようにセットしてください。万一、ボビンを逆の方向にセットすると、針折れや糸調子不良の原因となります。

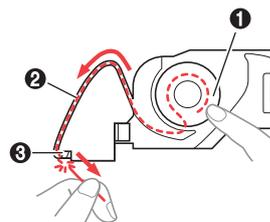
- 8 右手でボビンを軽く押さえたま (1)、ツメにかけた糸を針板カバーのミゾにそって通し (2)、左手で糸を軽く引っ張ります (3)。



**お知らせ**

- この図の 2 のように、糸を針板カバーのツメにかけてから糸を通し、3 の位置で糸を軽く引っ張ることで、内かまの板ばねの間に糸が入り、ぬうときに下糸に適切な張力を加えることができますようになります。

- 9 右手でボビンを軽く押さえたま (1)、左手で残りのミゾに糸を通します (2)。最後に手前に引いてカッターで糸を切ります (3)。

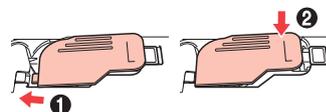


**お知らせ**

- 必ずこの手順に従って正しく下糸をセットしてください。針板カバーのミゾに糸をはめこむだけでは、下糸が正しくセットできず、縫製不良・糸調子不良の原因となります。

- 10 針板ふたを元に戻します。

針板ふたのタブを針板カバーに差し込んでから、針板ふたの右側を上から軽く押して取り付けます。



**お知らせ**

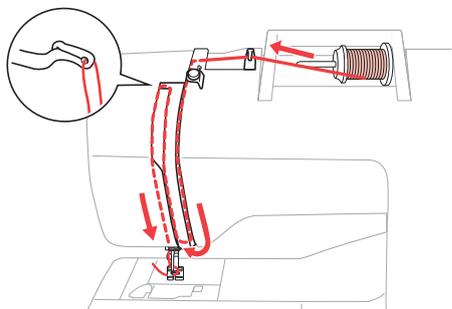
- 下糸を引き出さずにぬい始めることができます。下糸を引き出してからぬう場合は、「下糸を引き出してからぬう」(P.20)を参照してください。

# 上糸通し

## ⚠ 注意

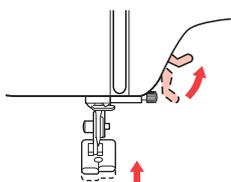
- 上糸は、手順に従って正しく通してください。上糸を正しく通していない場合、糸がからんで針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 20番以下の太い糸は使用しないでください。
- 針と糸は、「布地と糸の種類による針の使い分け」(P.14)を参照して、適切な組み合わせで使用してください。

## 上糸を通す



→ 上糸を通すときは、以下手順に従って正しく行ってください。

- 1 電源を入れます。
- 2 押えレバーで押えを上げます。

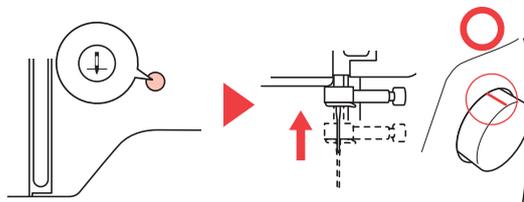


### 🙏 お願い

- 押えが上がっていない状態で上糸を通すことはできません。

- 3 ④ (はり上/下スイッチ) を1回または2回、「ピッ」と音がするまで長押しして、針を上げます。

→ 針が確実に上がっているときは、プーリーのしるしが上になります。必ず、プーリーのしるしが上になっていることを確認してください。上になっていない場合は、必ず、④ (はり上/下スイッチ) を「ピッ」と音がするまで長押しして、針を一番上まで上げてください。



- 4 電源を切ります。

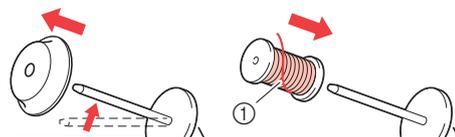
## ⚠ 注意



- 糸を針に通すときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因となります。

- 5 糸こま押えを取り外し、上糸用の糸こまを糸たて棒に取り付けます。

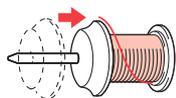
糸こまを糸たて棒に差し込み、糸が正面下から出るようにセットします。正しくセットしないと、糸が糸たて棒にからまるおそれがあります。



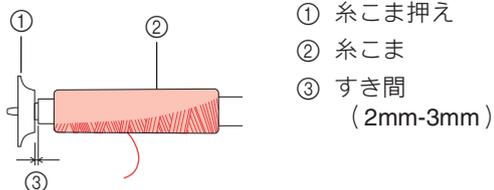
- ① 糸が正面下から出るようにセットします。

**6** 糸こま押えを糸たて棒に差し込みます。

糸こま押えのすばんでいる面を外側にして、奥までしっかりと差し込みます。



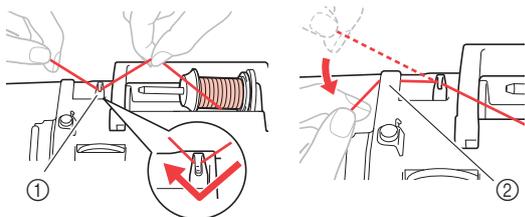
細巻き糸の糸こまを使用する場合は、糸こま押えの向きを逆にして差し込んでください。



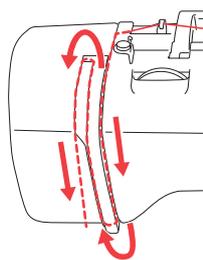
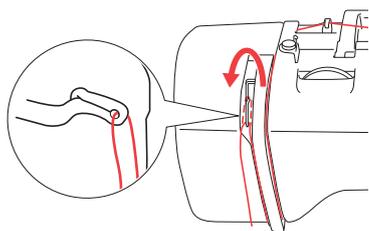
- ① 糸こま押え
- ② 糸こま
- ③ すき間  
(2mm-3mm)

**注意**

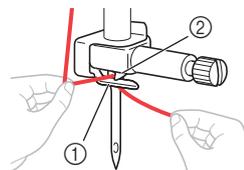
- 糸こまや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、針折れの原因となります。

**7** 糸を糸案内のツメ部分にかけてから、糸案内カバーの奥から手前へかけます。

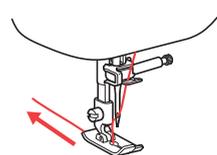
- ① 糸案内
- ② 糸案内カバー

**8** 矢印のように、ミゾにそって糸を通します。**9** 下図のように、糸が確実にてんびんに通っていることを確認します。**10** 針棒糸かけに糸をかけます。

図のように、左手で糸を押さえ、右手で糸端を持ってかけると、針棒糸かけの後ろに通しやすくなります。針棒糸かけのツメの左側に糸が通っていることを確認してください。



- ① 針棒糸かけ
- ② ツメ

**11** 針穴の手前から後ろへ糸を通します。**12** 糸を押えの下に通して、後ろ側へ10cmほど引き出します。

これで下糸と上糸の準備ができました。

## 布地と糸の種類による針の使い分け

- このミシンで使用できる針：家庭用ミシン針（HAx1 シリーズの太さ 9～16 番） 例）HAx1、HAx1SP など
- このミシンで使用できる糸：30～90 番  
\* 20 番以下の太い糸は使用しないでください。故障の原因となります。
- 布地により、ミシン針や糸を使い分けます。次の表を参考にして、布地に適した糸と針を選択してください。
  - 表は目安です。必ず試しぬいをしてください。使用する布地を、実際にぬう枚数分重ねてぬってください。
  - ミシン針は消耗品です。美しい仕上がりと安全のために、折れる前の早めの針交換をおすすめします。針交換の目安は「正しい針の見分け方」（P.15）を参照してください。

\* 基本として、薄い布地には細い針と細い糸、厚い布地には太い針と太い糸を使用します。  
\* 薄い布地をぬうときはぬい目を細かく、厚い布地をぬうときは粗くします。（P.19）

布地の特徴・種類		ミシン糸		針の太さ	ぬい目の長さの目安
		種類	太さ		
薄地	ローン、ジョーゼット、ガーゼなど	ポリエステル糸	60～90	9～11	細かいぬい目 (1.5mm～2.5mm)
		綿糸、絹糸	50～80		
普通地	ブロード、サージ、シーチングなど	ポリエステル糸	60～90	11～14	普通のぬい目 (2mm～3mm)
		綿糸、絹糸	50～60		
厚地	デニム（12オンス以上）、帆布、キルティングなど	ポリエステル糸、綿糸	30	16	粗いぬい目 (2.5mm～4mm)
		ポリエステル糸	60	14～16	
		綿糸、絹糸	30～50		
のびる布地 (ニット素材など)	ジャージー、Tシャツ地、フリースなど	ニット用糸	50	ニット用針（金） 11～14	布地の厚みに応じて調節 （「伸びる布地をぬう」 （P.22））
ステッチをかける場合 * 20番以下の太い糸（ステッチ糸）を使用しないでください。 ミシンの故障や、針折れの原因となります。		ポリエステル糸	30 50～60	14～16 11～14	布地の厚みに応じて調節

### ⚠ 注意



- 布地と糸と針の組み合わせは、上記に従ってください。組み合わせが適切でない場合、ぬい目がふぞろいになり、ぬいじわや目とびの原因になります。特に、厚い布地（デニムなど）を細い針（9～11番）でぬうと、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

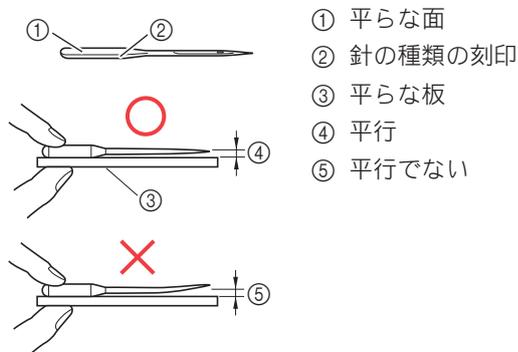
## 針の交換

### ⚠ 注意

- 針は必ず家庭用ミシン針（HA×1）を使用してください。そのほかの針を使用すると、針が曲がったり、ミシンが故障する原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。けがををするおそれがあります。

## 正しい針の見分け方

針を使用する前に、針の平らな面を平らな板などに合わせて確認し、すき間が平行にならない針は使用しないでください。



### 🙏 お願い

- 針は消耗品です。次の事例にあてはまるときは、針を交換して下さい。
  - 針が布地に刺さる際に通常と異なる音（パツパツやバスッバスッなど）が出るとき（針先が折れていたりつぶれていたりする可能性があります。）
  - 目とびが起きるとき（針が曲がっている可能性があります。）
  - 目安として、洋服などを1作品ぬい終えたとき

## 針の交換

「正しい針の見分け方」で確認した新しい針と、付属のドライバーを用意します。

- ④（はり上/下スイッチ）を1回または2回、「ピッ」と音がするまで長押しして、針を上げます。

- 電源を切ります。

### ⚠ 注意

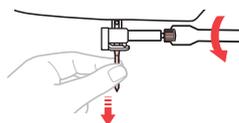


- 針を交換するときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されるとミシンが作動してけがの原因となります。

- 「押えの交換」（P.16）の②～③を参照して、押えを取り外します。

- ミシン内部に針が落ちるのを防ぐために、針板の上に布または紙を置いて、針板の穴をふさぎます。

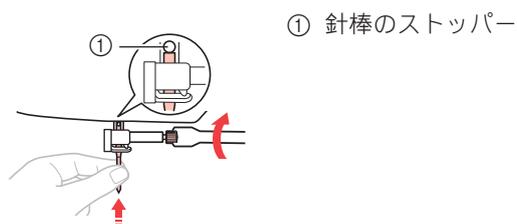
- 左手で針を持ち、ドライバーで針のとめネジを手前（時計と反対回り）に回し、針を取り外します。



- とめネジをしめたりゆるめたりするときに、無理に力を加えないでください。ミシンの部品が破損するおそれがあります。

- 新しい針を平らな面が後ろ側になるように、針棒のストッパーに当たるまで差し込みます。

そのあと、ドライバーで針のとめネジを奥側（時計回り）に回し、針のとめネジをしめます。



① 針棒のストッパー

### ⚠ 注意



- 針は必ずストッパーに当たるまで差し込み、ドライバーでとめネジを確実にしめてください。針が正しく取り付けられていないと、針折れや故障の原因となります。

- 「押えの交換」（P.16）の④～⑤を参照して、押えを元に戻します。

## 押えの交換

### ⚠ 注意

- めい方に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 押えは必ず純正品を使用してください。純正品以外の押えを使用するとけがをしたり、ミシンが故障したりする原因となります。



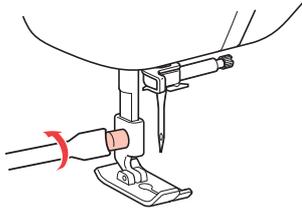
1 電源を切ります。

2 押えレバーを上げます。

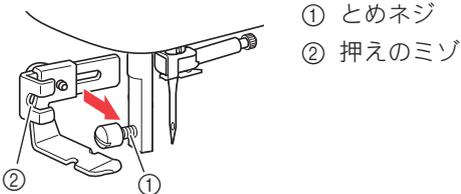
3 ドライバーで押えのとめネジを奥側（時計と反対回り）に回し、ゆるめます。

→ 押えが外れます。

- 押えホルダーのネジは、ネジ回しでも回すことができます。

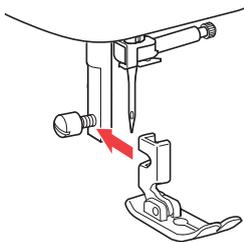


4 取り付ける押えのミゾをとめネジに合わせます。

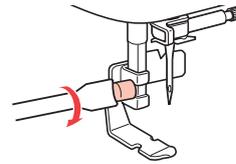


### 📧 お知らせ

- 直線専用押えは、以下のように取り付けてください。



5 右手で押えを支え、左手でドライバーを使用してとめネジを手前側（時計回り）に回して締め、押えを取り付けます。



### ⚠ 注意

- 押えのとめネジは、確実にしめてください。締め方がゆるいと、押えが落ちて針に当たり、針が曲がったり折れたりするおそれがあります。



# 第2章 めい方の基本

## ぬってみましょう

### ⚠ 注意



- ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針やプーリーなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。けがの原因となります。
- 縫製中は、布地を無理に引っ張ったり押ししたりしないでください。けがや針折れの原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。折れやすく、けがの原因となります。
- 縫製中は、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

## ミシンかけの手順

ミシンをかけるときの基本の手順は次のとおりです。

### 1 電源を入れる

ミシンの電源を入れます。(P.7)



### 2 めい目の長さを調節する

布地やぬう箇所に合わせてめい目の長さを調節します。(P.19)



### 3 押えを取り付ける

めい方に適した押えを取り付けます。(P.16)



### 4 スタート

布地をセットし、ミシンをスタートさせます。めい終わったら糸を切ります。詳細は、「基本的なめい方」(P.17)を参照してください。

## 基本的なめい方

### 🔔 お願い

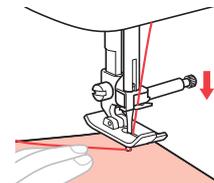
- 最初に、実際に使用する布地のはぎれと糸を使用して、試しぬいをしてください。

- 1 布地に適した針と糸を準備します。(P.14)  
必要に応じて、針を交換します。(P.15)
- 2 下糸をボビンに巻いて、ミシンにセットします。(P.8)
- 3 上糸を通します。(P.12)
- 4 電源を入れます。
- 5 押えレバーを上げ、押えの下に布地を置きます。

ぬいしろが右側になるように置くと、まっすぐにぬいやすく、余分な布地がじゃまになりません。

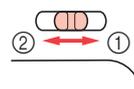
- 6 左手で布地と糸端を押さえ、プーリーを時計と反対回りに回すか、⓪ (はり上/下スイッチ) を「ピッ」と音がするまで長押しして、ぬい始めの位置に針を刺します。

糸の端がほつれないように返しぬいをする場合は、ぬいはしから3~5針分事前に針を刺してください。(P.19)



- 7 押えレバーを下げます。
- 8 スピードコントロールレバーでぬう速さを調節します。

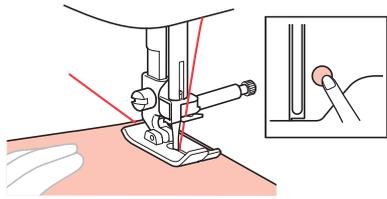
ぬっている途中でも、ぬう速さを調節することができます。



- ① はやく
- ② ゆっくり

**9** スタート/ストップスイッチを「ピッ」と音がするまで長押しして、ぬい始めます。

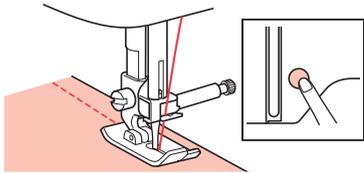
布地に軽く手を添えます。



**お知らせ**

- フットコントローラーを接続しているときは、スタート/ストップスイッチは使用できません。
- ぬい始めに返しぬいをする場合は、**⑱** (返しぬいスイッチ) を押してください。(P.19)

**10** ぬい終わったら、もう一度スタート/ストップスイッチを「ピッ」と音がするまで押し、ミシンを停止させます。

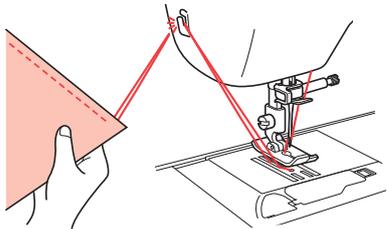


**お知らせ**

- ぬい終わりに返しぬいをする場合は、**⑱** (返しぬいスイッチ) を押してください。(P.19)

**11** 押えレバーを上げて布地を取り出します。針が下がっている場合は、針も上げてください。

**12** 本体左側側面の糸切りで糸を切ります。



**13** 仕上がりを確認します。必要に応じて、糸調子を調節してください。(P.21)

**■ フットコントローラー (別売) を使用する**

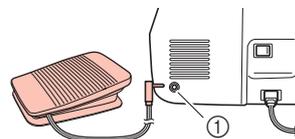
フットコントローラーを使用して、ミシンを操作することもできます。

**お知らせ**

- フットコントローラーを接続しているときは、スタート/ストップスイッチは使用できません。下糸巻きもフットコントローラーで操作します。

**1** 電源を切ります。

**2** ミシンのフットコントローラージャックに、フットコントローラーのプラグを差し込みます。

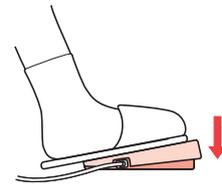


① フットコントローラージャック

**3** 電源を入れます。

**4** フットコントローラーをゆっくり踏み込み、ぬい始めます。

深く踏むと速く、浅く踏むと遅く進みます。



深く踏むとミシンが速く進んでしまうので、注意してください。

**お知らせ**

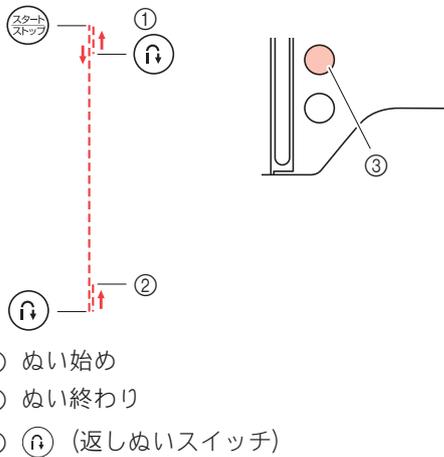
- スピードコントロールレバーで、フットコントローラーの最高速度を調節することができます。

**5** ぬい終わりの位置まできたら、フットコントローラーから足を離し、ミシンを停止させます。

## 返しぬいをする

ぬい始めとぬい終わりは、糸の端がほつれないように、返しぬいをします。（3～5針程度）

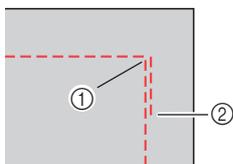
④（返しぬいスイッチ）を押している間、ぬう方向が反対方向になります。



- ① ぬい始め
- ② ぬい終わり
- ③ ④（返しぬいスイッチ）

### ■ ぬい始めとぬい終わりが重なる場合

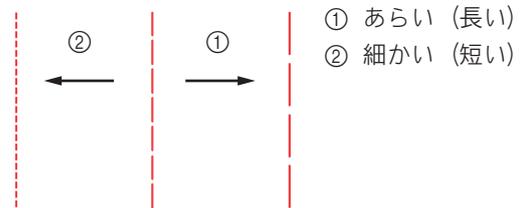
筒ものなどぬい目が1周するもの場合は、返しぬいをしないでぬい始めて、1周したらぬい始めのぬい目に3～5針重ねてぬいます。



- ① ぬい始め
- ② ぬい終わり

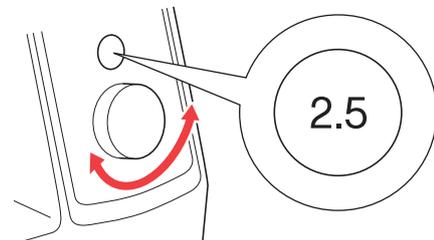
## ぬい目の長さを調節する

ぬい目の長さ（1針が進む長さ）を調節して、ぬい目をあらく（長く）したり細かく（短く）したりすることができます。



### 1 ぬい目長さ調節ダイヤルを回してぬい目の長さを調節します。

→ ぬい目長さ表示窓に、設定中のぬい目の長さが表示されます。



### ⚠ 注意

- ぬい目がつまる場合は、ぬい目の長さをあらくしてください。ぬい目が詰まった状態でぬい続けると、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

# 上手にぬうためのヒント

## 上手にぬうコツ

### ■ 試しぬいをする

作品をぬい始める前に、実際に使用する布地のはぎれと糸で試しぬいをすることをおすすめします。

布地の枚数や模様に合わせて、糸調子や模様の幅・長さを確認してください。

#### 🌸 お願い

- 布地の厚みや接着芯などが仕上がりに影響することもありますので、実際にぬう前に試しぬいをしてください。

### ■ ぬう方向を変更する

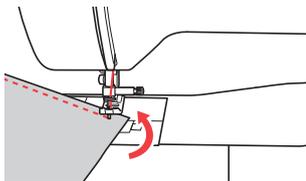
#### 1 角までぬったら、ミシンを停止させます。

このとき、針が下がった（布地に刺さった）状態にしておきます。もし針が上がっている場合は、

⊕（はり上/下スイッチ）を「ピッ」と音がするまで長押しして針を下げます。

#### 2 押えレバーを上げ、布地を持って回転させます。

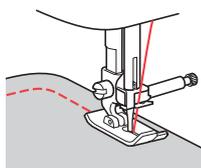
針位置を基点に回転させます。



#### 3 押えレバーを下げ、続きをぬいます。

### ■ カーブをぬう

カーブの途中でミシンを停止させながら、少しずつ向きを変更してぬいます。「布端から一定の距離をぬう」（P.22）を参考にして、布端と平行になるようにぬいます。



## 下糸を引き出してからぬう

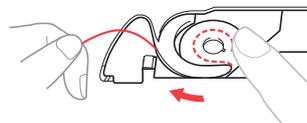
ぬい始めの糸の始末をしたいときは、ぬい始める前に、下糸を引き出しておきます。

#### 1 「上糸を通す」（P.12）を参照して、針に糸を通します。

#### 2 「下糸をセットする」（P.10）の④～⑥を参照して、ボビンをかまに入れます。

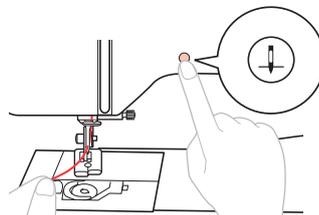
#### 3 下糸の端をミゾにそって途中まで通します。

下糸が引き出しにくくなるので、カッターで糸を切らないでください。



#### 4 電源を入れます。

#### 5 左手で上糸の端を軽く持ち、⊕（はり上/下スイッチ）を2回、「ピッ」と音がするまで長押しします。

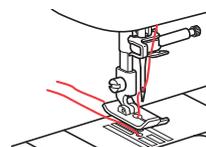


→ 下糸が針板から輪になって引き出されます。

#### 6 上糸をゆっくりと上へ引き、下糸の糸端を引き出します。



#### 7 上糸を押えの穴から押えの下に通して、下糸とそろえて押えの下から後ろ側へ10cmほど引き出します。



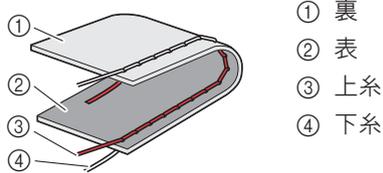
#### 8 針板ふたを元に戻します。

## 糸調子を調節する

布地や糸の種類に合わせて、糸調子を調節します。

### ■ 正しい糸調子

上糸と下糸が布地のほぼ中央でまじわります。布地の表に出るのは上糸だけで、布地の裏に出るのは下糸だけになります。

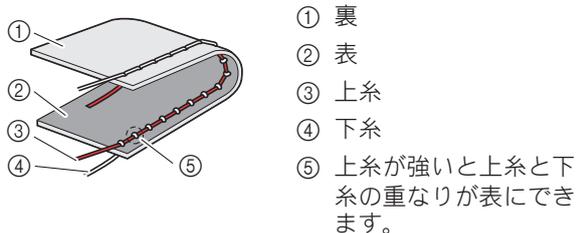


### ■ 上糸が強いつき

布地の表に下糸が見える場合は、上糸が強すぎます。糸調子を弱くしてください。

#### 💡 お願い

- 下糸が正しくセットされていないと、上糸が強くなる場合があります。上糸が強いつきは、下糸のセットをやり直してください。「下糸をセットする」(P.10)を参照してください。



糸調子ダイヤルを左に回し、上糸調子を弱くします。

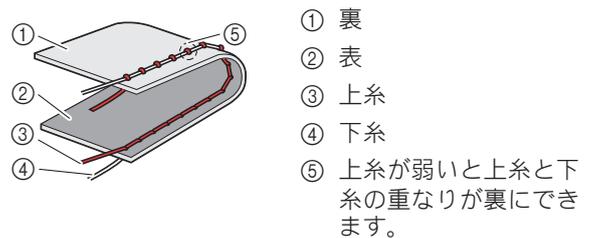


### ■ 上糸が弱いとき

布地の裏に上糸が見える場合は、上糸が弱すぎます。糸調子を強くしてください。

#### 💡 お願い

- 上糸が正しくセットされていないと、上糸が弱くなる場合があります。上糸が弱いときは、上糸通しをやり直してください。「上糸通し」(P.12)を参照してください。



糸調子ダイヤルを右に回し、上糸調子を強くします。



#### 💡 お願い

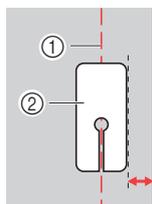
- 下糸セットと上糸通しが正しく行われていない場合、糸調子が合わないことがあります。糸調子を調節しても糸調子が合わないときは、下糸セットと上糸通しをやり直してください。

## 布端から一定の距離をぬう

布端と平行に一定の幅でぬうときは、ぬいしろの端が右側になるようにぬい始め、押えの右端が針板の目盛りを基準にしてぬいます。

### ■ 押えを基準にする場合

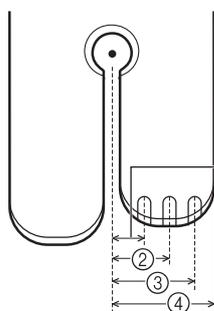
押えの右端を参考にしてぬいます。



- ① ぬい目
- ② 押え

#### 📌 お知らせ

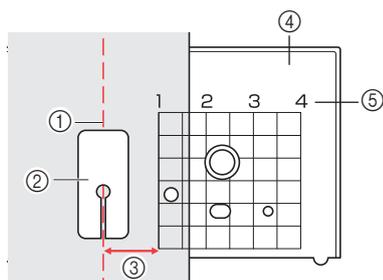
- 直線専用押えについている目盛りは、針落ち位置からの距離の目安です。



- ① 2mm
- ② 4mm
- ③ 6mm
- ④ 8.5mm

### ■ 針板を基準にする場合

ぬい目は針板の目盛りの左端から 10mm 離れています。針板に刻まれている目盛りを参考にしてぬいます。目盛りは 5mm 単位になっています。

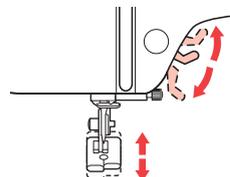


- ① ぬい目
- ② 押え
- ③ 10mm
- ④ 針板
- ⑤ cm

## いろいろな素材をぬう

### ■ 厚い布地をぬう

押えレバーは2段階に上がります。厚地を重ねてぬう場合など布地を入れにくいときは、レバーをさらに押し上げると、押えがもう一段上がり布地を入れやすくなります。



### ⚠ 注意

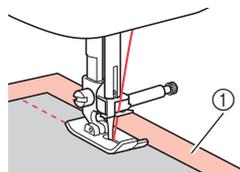
- 6mm 以上の厚地をぬったり、無理に布地を押しこんだりすると、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

### ■ 薄い布地をぬう

シフォンのような薄い布地をぬうと、ぬい目がつれてしまったり、布がうまく送られないことがあります。

布が巻き込まれたり、ぬい目がつれたりする場合、布地の下に水溶性シート（不織布タイプ）をして、布地と一緒にぬいます。

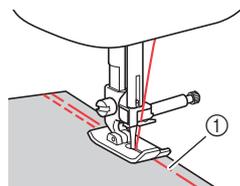
- ① 水溶性シート（不織布タイプ）



### ■ 伸びる布地をぬう

あらかじめしつけをして、布地を引っ張らないようにぬいます。ぬい目がつれる場合、布地の下に水溶性シート（不織布タイプ）をして、布地と一緒にぬいます。

- ① しつけ

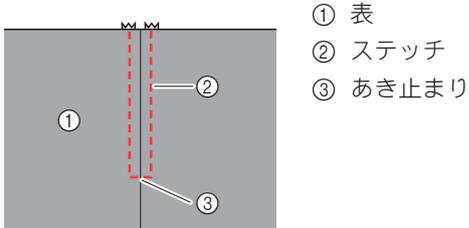


ニット生地をぬうときは、ニット用針（先端が丸い、金色の針）を使用してください。

# 第3章 その他のぬい方

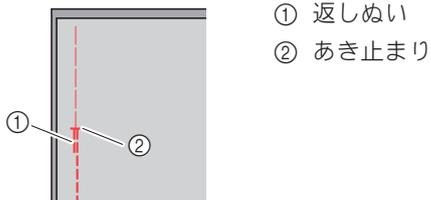
## ファスナーつけ

つき合わせた布地の両方にステッチが入ります。



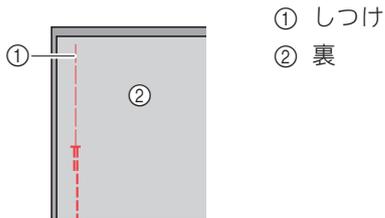
- ① 表
- ② ステッチ
- ③ あき止まり

- 1** 直線専用押えを取り付けます。
- 2** あき止まりから下側に地ぬいをします。  
布地は中表にし、あき止まりは返しぬいをします。



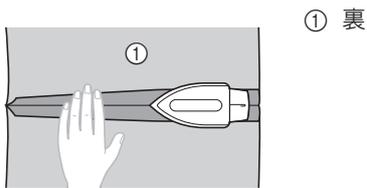
- ① 返しぬい
- ② あき止まり

- 3** ファスナーをつける部分のでき上がり線にしつけをします。



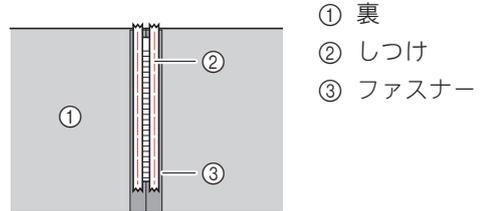
- ① しつけ
- ② 裏

- 4** ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。



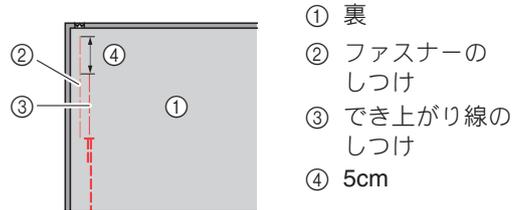
- ① 裏

- 5** ぬい目とファスナーの中央を合わせて、しつけをします。



- ① 裏
- ② しつけ
- ③ ファスナー

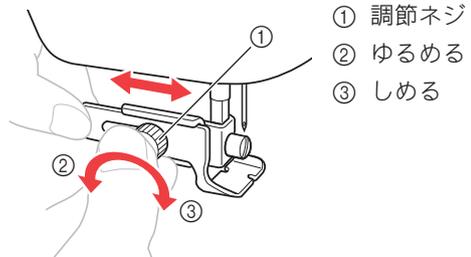
- 6** でき上がり線のしつけを布端から5cmの位置までほどきます。



- ① 裏
- ② ファスナーのしつけ
- ③ でき上がり線のしつけ
- ④ 5cm

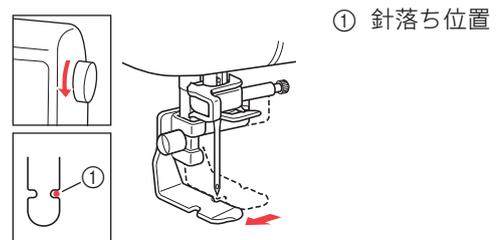
- 7** 片押えを取り付けます。  
• 「押えの交換」(P.16)を参照してください。

- 8** 調節ネジをゆるめます。



- ① 調節ネジ
- ② ゆるめる
- ③ しめる

- 9** プーリーを回し、針おち位置が右側になることを確認して、片押えの位置を固定します。



- ① 針落ち位置

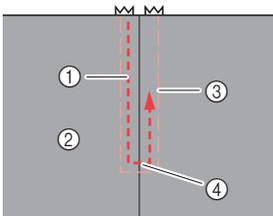
その他のぬい方  
ファスナーつけ

## ⚠ 注意

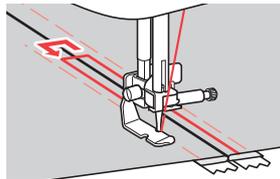


- 片押えを使用するときは、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。

### 10 布地の表からステッチをかけます。



- ① ステッチ
- ② 表
- ③ しつけ
- ④ あき止まり



## ⚠ 注意



- ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

### 📖 お知らせ

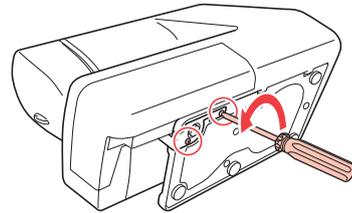
- 押えがファスナーのスライダーに当たる場合は、針が下がった（布地に刺さった）状態にして押えを上げます。押えに当たらないようスライダーを動かしてから、押えを下げ続きをぬいます。

### 11 しつけをほどきます。

## 筒ものをぬう

そで口やズボンのすそなどの小さな筒ものをぬうときは、補助テーブルを取り外してフリーアームにします。

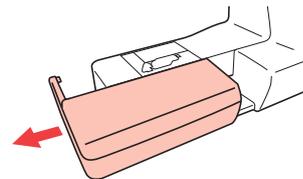
### 1 本体を倒し、底面のネジ（2本）と鉄板を取り外します。



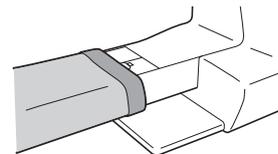
### 🙏 お願い

- 底面のネジをはずすドライバーは、付属品に同梱されておりません。お手持ちのプラスドライバーをご使用ください。
- 取り外したネジ2本と鉄板は、なくさないように保管してください。

### 2 補助テーブルを左へ引いて取り外します。



### 3 ぬいたい部分をアームにセットし、筒を回転させながら布地をぬっていきます。



### 4 ぬい終わったら、補助テーブルを元に戻し、底面の鉄板、ネジを取り付けます。

## ⚠ 注意



- フリーアームにしない場合は、本体側面のネジと鉄板は取り外さないでください。

# 第4章 付録

## お手入れのしかた

**⚠ 注意**

- ミシンの掃除は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。けがまたは感電の原因となります。

本体表面の汚れを取るときは、中性洗剤をうすめて布に浸して固くしぼり、ふき取ります。洗剤でふいたあとは、乾いた布でふき取ります。

画面が汚れた場合は、乾いたやわらかい布地などで軽くふきとってください。有機溶剤や洗剤は使用しないでください。

### 注油に関して

お客様ご自身による本製品への注油は行わないでください。故障の原因となります。本製品の動作に必要な油はあらかじめ十分に塗布されて出荷されていますので、定期的な注油する必要はありません。万一、プーリーを回すと重い、異常な音がるなどの症状が発生した場合は、ただちに使用をやめて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

### ミシンを保管するときのご注意

以下の場所にミシンを保管しないでください。結露によるさびの発生など、故障の原因となります。

- 温度が著しく高くなる場所
- 温度が著しく低くなる場所
- 急激に温度が変化する場所
- 湿気、湯気が多い場所
- 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所
- 屋外や直射日光の当たる場所
- ほこり、油煙の多い場所

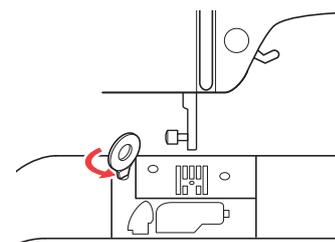
#### 🙏 お願い

- 本製品を末永くご愛用いただくために、ときどき電源を入れて、縫製してください。長期間保管したまま使用しない状態が続くと、ミシンの性能を損なうおそれがあります。

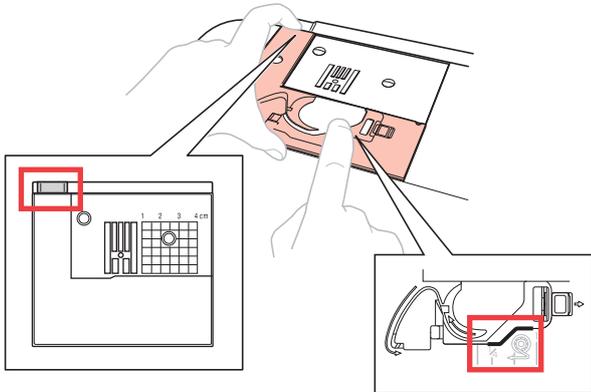
## かまの掃除

かまには糸くずやほこりがたまりやすく、縫製不良の原因になる場合があります。定期的に掃除してください。

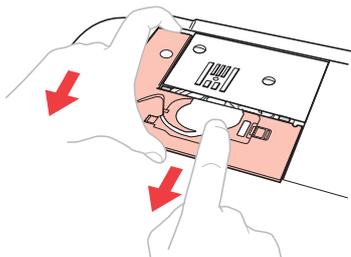
- 1 ⬇ (はり上/下スイッチ) を「ピツ」と音がするまで長押しして針を上げます。
- 2 電源を切ります。
- 3 電源プラグをコンセントから抜きます。
- 4 押えを取り外します。
  - 「押えの交換」(P.16) を参照してください。
- 5 針を取り外します。
  - 「針の交換」(P.15) を参照してください。
- 6 補助テーブルのふたを開けます。
- 7 針板ふたを外します。
- 8 針板カバーのネジをはずします。



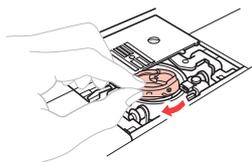
- 9** 右手人差し指を針板ふたのつまみ下部付近に添えます。  
針板カバーの奥側にあるくぼみに左手の人差し指をかけます。  
左手の親指で針板カバーの手前を持ちます。



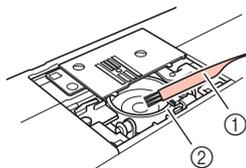
- 10** 針板カバーを手前にスライドさせて取り外します。



- 11** 内かまをつかみ、取り出します。



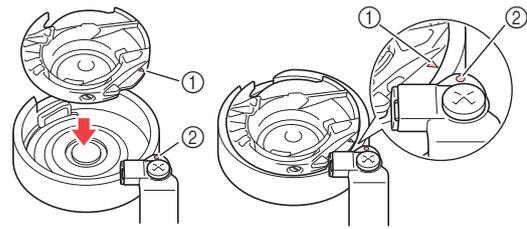
- 12** ミシンブラシや掃除機で、外かま周辺の糸くずやほこりを取り除きます。



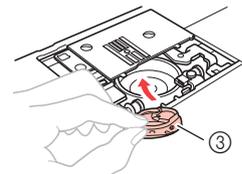
- ① ミシンブラシ  
② 外かま

- 内かまに油をささないでください。

- 13** 内かまの▲印とミシンの●印が合うように、内かまを取り付けます。



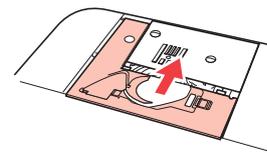
- ▲印と●印を合わせます。



- ① ▲印  
② ●印  
③ 内かま

- 合わせる位置を確認してから、取り付けを行ってください。

- 14** 針板カバーの突起を針板に差し込み、そのままミシンに取り付けます。



- 15** 針板カバーのネジを取り付けます。

- 16** 針板ふた、針、押え、補助テーブルのふたを元に戻します。

### ⚠ 注意

- 傷がついた内かまは使用しないでください。万一使用すると、上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。新しい内かまが必要な場合は、最寄りの販売店でお買い求め下さい。
- 内かまは正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

## 困ったとき

ミシンが思いどおりに動かないときは、修理を依頼する前に次の項目および弊社サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（<http://s.brother/cpjam/>）の「よくあるご質問（Q&A）」を確認してください。

それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

### ■ よくあるご相談

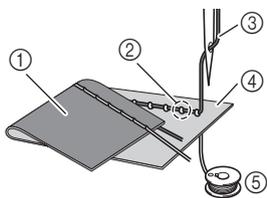
以下のよくあるご相談については、詳しい原因と対処方法を記載しております。お問い合わせの前にご確認ください。

上糸がつる	P.27 参照
布裏で糸がからまる	P.27 参照
糸調子が合わない	P.28 参照
布がミシンに入り込んでとれなくなった	P.29 参照
ボビンの下に糸がからまってしまった	P.31 参照

## 上糸がつる

### ■ こんなとき

- 上糸がピンと一本線になっている。
- 布地の上側の面に下糸がポツポツと出ている。（下図参照）
- 上糸がつっていて、引くと抜けてしまう。
- 上糸がつっていて、布にしわがよってしまう。
- 上糸が強く、糸調子を調節してぬい直してもまったく変わらない。



- ① 布地の下側の面
- ② 布地の上側の面に下糸が出ている
- ③ 上糸
- ④ 布地の上側の面
- ⑤ 下糸

### ■ 原因

下糸のセットがまちがっている

下糸のセットがまちがっていると、下糸に適正な張力が加わらず、上糸が引き上げられる際に布地まで一緒に引っ張られてしまいます。そのため、布地の上に糸が出てしまいます。

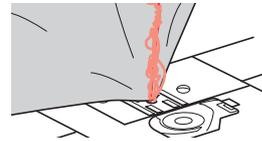
### ■ 対処方法／確認内容

下糸を正しくセットします（P.10 参照）。

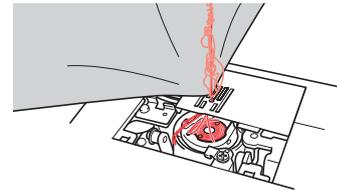
## 布裏で糸がからまる

### ■ こんなとき

- 布の下側で糸がグチャグチャにからんでしまう。



- ぬい始めるとすぐにガタガタと音がして進まなくなる。
- 布地の下側を見ると、かまの中まで糸が何重にもからまっている。



### ■ 原因

上糸のセットがまちがっている

上糸のセットがまちがっていると、布地を貫通した上糸をしっかりと引き上げることができず、かまの中に上糸がたまり、グチャグチャにからんでしまい、ガタガタと音がします。

### ■ 対処方法／確認内容

からんだ糸を取り除き、上糸をセットし直します。

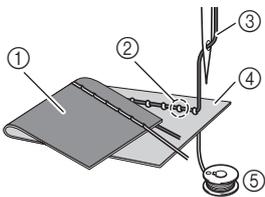
- ① からんだ糸を取り除きます。取れない場合は、はさみで糸を切ります。
  - 「かまの掃除」（P.25）を参照してください。
- ② いったん上糸をミシンから取り外します。
- ③ 「上糸を通す」（P.12）の手順に従って、正しく上糸をセットします。
  - ボビンを内かまから取り出した場合は、「下糸をセットする」（P.10）を参照して、正しくボビンをセットしてください。

## 糸調子が合わない

### ■ こんなとき

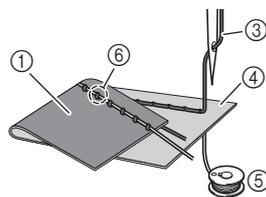
- 症状① 布地の上側にポツポツと下糸が出ている。  
(下図参照)
- 症状② 布地の上側で上糸が直線になる。
- 症状③ 布地の下側にポツポツと上糸が出ている。  
(下図参照)
- 症状④ 布地の下側で下糸が直線になる。
- 症状⑤ 布地の下側のぬい目がゆるい、またはたるむ。

#### □ 症状①



- ① 布地の下側の面
- ② 布地の上側の面に下糸が出ている
- ③ 上糸
- ④ 布地の上側の面
- ⑤ 下糸
- ⑥ 布地の下側の面に上糸が出ている

#### □ 症状③



### ■ 原因／対処方法／確認内容

#### □ 原因 1

糸が正しくミシンにセットされていない。

<症状①、②に該当する場合>

下糸が正しくセットされていません。

糸調子ダイヤルを「自動」にしてから、「上糸がつかない」(P.27)を参照してセットし直します。

<症状③～⑤に該当する場合>

上糸が正しく通っていません。

糸調子ダイヤルを「自動」にしてから、「布裏で糸がからまる」(P.27)を参照して上糸をかけ直します。

#### □ 原因 2

布地に合った糸や針を使用していない。

ミシン針は布地の種類や糸の太さによって使い分けが必要です。

布地に合った糸と針を使用しないと、糸調子が合わなかったり、布地にしわが寄ったり、目とびの原因になったりします。

- 「布地と糸の種類による針の使い分け」(P.14)の一覧表を参照して、布地に合った糸と針を使用しているか確認してください。

#### □ 原因 3

上糸調子の設定値が適正でない。

適正な糸調子になるように調節します。

「糸調子を調節する」(P.21)を参照してください。使用する布地／糸の種類やぬい方によって、適正な糸調子は異なります。

- \* 実際に使用する布地のはぎれで試しぬいをして、糸調子を調節してください。

#### 🔔 お願い

- 上糸の通し方や下糸のセットが正しくされていない場合は、糸調子の調節が正しく行えません。上糸かけ、下糸セットの確認を先に行ってから、糸調子の調節を行ってください。
- 布地の上側に下糸が見える場合  
糸調子ダイヤルを左に回し、糸調子を弱くします。



- 布地の下側に上糸が見える場合  
糸調子ダイヤルを右に回し、糸調子を強くします。



## 布がミシンに入り込んでとれなくなった

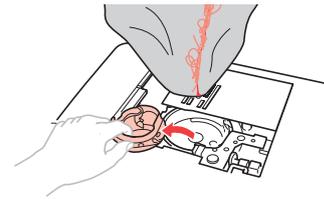
布がミシンに入り込んでとれない場合、糸が針板の下でからんでいることがあります。以下の手順で、布をミシンから取り外してください。操作が手順どおりに進まない場合は、無理に作業を続けず、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

### ■ 布をミシンから取り外す

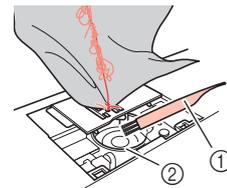
- 1 直ちにミシンを停止させます。
- 2 電源を切ります。
- 3 針を取り外します。  
針が布に刺さっている場合は、プーリーを奥側（時計回り）に回して針を布から外してから、針を取り外してください。  
・「針の交換」（P.15）を参照してください。
- 4 押えを取り外します。  
押えに糸がからみついている場合は、からんだ糸を取り除いてから、押えレバーを上げて押えを取り外してください。押えが破損するおそれがあります。  
・「押えの交換」（P.16）を参照してください。
- 5 布を持ち上げて、布の下の糸を切ります。  
ここで布を取り外すことができる場合は、取り外してください。次の手順へ進み、かまの掃除をします。
- 6 針板カバーを外します。  
・「かまの掃除」（P.25）を参照してください。
- 7 からんだ糸を切ってボビンを取り出します。



- 8 内かまを取り出します。  
内かまに糸が残っている場合は、取り除いてください。



- 9 ミシンブラシや掃除機で、外かま周辺の糸くずやほこりを取り除きます。



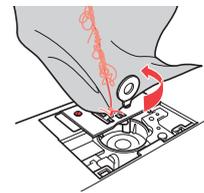
- ① ミシンブラシ
- ② 外かま

ここまでの手順で布を取り外せた場合	→ 手順 16 に進む
ここまでの手順で布が取り外せない場合	→ 手順 10 に進む

#### 🔔 お願い

- ・ 缶入り圧縮空気は使用しないでください。

- 10 ネジ回しを使用して、針板の 2 つのネジを取り外します。

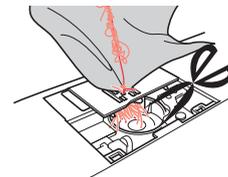


#### 🔔 お願い

- ・ 取り外したネジを、ミシンの中に落とさないように注意してください。

- 11 針板を少し持ち上げ、絡んだ糸を切って、針板を取り外します。

針板から布と糸を取ります。



ここまでの手順を終えても布が取り外せない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

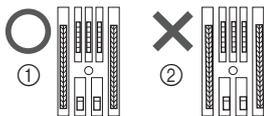
- 12 かまや送り歯のまわりの糸を取り除きます。

- 13 プーリーを回して、送り歯を上に戻します。

- 14 針板の2つのネジ穴を針板取付け部の2つの穴に合わせながら、ミシンに針板をはめ込みます。
- 15 針板の右側のネジを手で軽くしめます。次に、左側のネジをネジ回しでしっかりしめます。最後に右のネジもしっかりしめます。



プーリーを回して、送り歯が針板のミゾの端に当たらず、スムーズに動くことを確認してください。



- ① 正しい送り歯の位置
- ② 正しくない送り歯の位置

- 16 「かまの掃除」(P.25)の手順<sup>13</sup>のように、内かまを取り付けます。
- 17 針板カバーを取り付けます。(「かまの掃除」(P.25)の手順<sup>14</sup>参照)
- 18 針の状態を確認して、針をミシンに取り付けます。

曲がっているなど針が悪くなっている場合は、必ず新しい針を取り付けてください。

- 「正しい針の見分け方」(P.15)および「針の交換」(P.15)を参照してください。

**お知らせ**

- 布がミシンに入り込んだ際に、針が損傷しているおそれがありますので、新しい針に交換することをおすすめします。

**■ ミシンの動作を確認する**

針板を取り外したあとは、正しく取り付けられていることを確認するために、ミシンの動作確認をしてください。

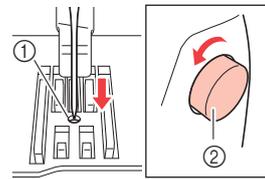
- 1 電源を入れます。
- 2 ぬい目の長さを5mmにします。

**❏ お願い**

- 押えと糸は、まだミシンにセットしないでください。

- 3 プーリーをゆっくりと手前（時計と反対回り）に回し、針が針板の穴の中央に落ちることを左右前後から見て確認します。

針が針板に当たる場合は、もう一度針板を取り外し、「布をミシンから取り外す」(P.29)の手順<sup>13</sup>からやり直してください。



- ① 針板の穴
- ② プーリー

- 4 電源を切ったから、押えとボビンをセットします。

傷がついたまたは破損した押えを使用しないでください。針折れや縫製不良の原因となります。

- 「押えの交換」(P.16)および「下糸をセットする」(P.10)を参照してください。

- 5 上糸をかけ直します。

- 上糸のかけ方については、「上糸通し」(P.12)を参照してください。

- 6 普通地で試しぬいをします。

**❏ お願い**

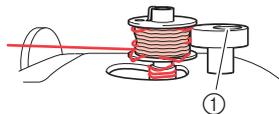
- 正しくぬえない場合、原因として、上糸が正しくセットされていないことや薄い布地を使用していることが考えられます。試しぬいの仕上がりが良くない場合は、上糸のかけ方や使用している布地を確認してください。

## ボビンの下に糸がからまってしまった

糸が下糸巻き案内の皿の下に確実に通っていない状態で下糸を巻くと、ボビンの下に糸が巻かれてしまうことがあります。

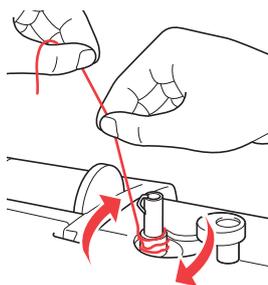
### ⚠ 注意

- ボビンホルダーのネジは外さないでください。外すと、ミシンが故障するおそれがあります。ネジを外しても、糸はほどけません。



① ボビンホルダーのネジ

- 1 下糸巻きを停止します。
- 2 下糸巻き案内側で、はさみで糸を切ります。
- 3 ボビンを左側へ戻し、下糸巻き軸からボビンを抜きます。ボビンと軸の間で糸を切り、ボビンを軸から完全に取り外します。
- 4 図のように左手で糸端を持ち、右手で軸近くの糸をゆっくりと時計回りに回して、からまった糸をほどきます。



## こんなときは

修理を依頼される前に、次の項目を点検してください。参照ページが「※」のときは、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

### ■ めう前の準備

症状、原因 (対処)	ページ
下糸がボビンにきれいに巻けない	
下糸巻き案内に糸がしっかりかかっている。	9
下糸巻き案内から引き出した糸を正しくボビンに巻き付けていない。	9
ボビンが下糸巻き軸に正しくセットされていない。	9
下糸を引き出すことができない	
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	15
下糸のセットのしかたがまちがっている。	10
ライトが点灯しない	
ライトが故障した	-
お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	

■ ぬっているとき

症状、原因 (対処)	ページ
<b>ミシンが動かない</b>	
スタート/ストップスイッチを押していない。	18
下糸巻きを行った後、下糸巻き軸が右側のままになっている。	9
押えが下がっていない。	17
フットコントローラーを接続したままスタート/ストップスイッチを押している。	18
針板カバーが正しく取り付けられていない。	25
<b>針が折れる</b>	
針の取り付け方がまちがっている。	15
針のとめネジがゆるんでいる。	15
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	15
布地に合った針・糸を使用していない。	14
上糸調子が特に強すぎる。	21
布地を不当に引っ張っている。	-
糸こまが正しくセットされていない。	8
針板の穴の周辺にキズがある。	※
押えの穴の周辺にキズがある。	※
内かまにキズがある。	※
本機純正のボビンを使用していない。	8
上糸の通し方がまちがっている。	12
下糸セットのしかたがまちがっている。	10
押えの取り付けがまちがっている。	16
押えのとめネジがゆるんでいる。	16
布地が厚すぎる。	14, 22
厚い布地などを縫製中に布地を押しこんでいる。	22
ぬい目が細かすぎる。	19
下糸が正しく巻かれていない。	8

症状、原因 (対処)	ページ
<b>上糸が切れる</b>	
上糸の通し方がまちがっている (糸こまが正しくセットされていない、糸が針棒糸かけから外れているなど)。	12
糸にこぶや結び目がある。	-
針に比べて糸が太すぎる。	14
上糸調子が強すぎる。	21
糸がからまっている。	27
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	15
針の取り付け方がまちがっている。	15
針板の穴の周辺にキズがある。	※
押えの穴の周辺にキズがある。	※
内かまにキズがある。	※
布地に合った針・糸を使用していない。	14
本機純正のボビンを使用していない。	8
<b>布裏で糸がからまる</b>	
上糸の通し方がまちがっている。	12, 27
布地に合った針・糸を使用していない。	14
<b>上糸がつる</b>	
下糸セットのしかたがまちがっている。	10, 27
<b>下糸が切れる</b>	
下糸セットのしかたがまちがっている。	10
下糸が正しく巻かれていない。	8
キズのあるボビンを使用している。	10
糸がからまっている。	29
本機純正のボビンを使用していない。	8
<b>布地にしわがよる</b>	
上糸の通し方、または下糸のセットのしかたがまちがっている。	8, 12
糸こまが正しくセットされていない。	8
布地に合った針・糸を使用していない。	14
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	15
薄地に対してぬい目があらずすぎる。	19
糸調子が合っていない。	21, 28

症状、原因 (対処)	ページ
正しくぬえない	
糸調子が合っていない。	21、28
内かまなどで糸がからまっている。	27
ぬい目が飛ば	
糸の通し方がまちがっている。	8、12
布地に合った針・糸を使用していない。	14
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	15
針の取り付け方がまちがっている。	15
針板の下にゴミがたまっている。	25
薄い布地や伸びる布地をぬっている。 • 布地の下に水溶性シート (不織布タイプ) をしいてぬいます。	22
ぬい目ができない	
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	15
下糸セットのしかたがまちがっている。	8
上糸の通し方がまちがっている。	12
ぬい音が高い/ガタガタと音がする	
送り歯にゴミがたまっている。	25
かまの部分に糸くずが巻きこまれている。	25
上糸の通し方がまちがっている。	12
本機純正のポピンを使用していない。	8
内かまに針が刺さった穴やスリキズがある。	※
布地を送らない	
ぬい目が細かすぎる。	19
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	15
糸がからまっている。	27
布地が逆方向に送られる	
送り機構が故障した。	※
針が針板に当たる	
針のとめネジがゆるんでいる。	15
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	15
布がミシンに入り込んでとれない	
糸が針板の下でからんでいる。	29
折れた針がミシンの中に落ちた	
<ul style="list-style-type: none"> <li>ミシンの電源を切ってから、針板を外します。ミシンの中に落ちた針が見える場合は、ピンセットなどで取り出します。針を取り出したら、針板を元に戻し、新しい針を取り付けます。</li> <li>電源を入れる前に、プーリーを手でゆっくり手前に回してなめらかに回るか、新しい針が針板の穴の中央を通るか確認してください。プーリーがなめらかに回らない場合やミシンの中に落ちた針を取り出せない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」にご相談ください。</li> </ul>	29
プーリーを回したときに重い	
糸がかまなどにからんでいる。	25、27、29

## ■ 仕上がり

症状、原因 (対処)	ページ
糸調子が合わない	
上糸の通し方がまちがっている。	12、28
下糸セットのしかたがまちがっている。	10、28
布地に合った針・糸を使用していない。	14
押えが正しく取り付けられていない。	16
糸調子が合っていない。	21、28
下糸が正しく巻かれていない。	8
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	15
本機純正のポピンを使用していない。	8
ぬい目がくずれる	
薄い布地や伸びる布地をぬっている。 • 布地に接着芯を貼ります。	22
糸調子が合っていない。	21、28
ぬっている途中で布地を引っ張ったり押さえたり、布地がずれたりしている。 • 布地がまっすぐ送られるように、布に手を軽く添えてぬいます。	18
内かまなどで糸がからまっている	27

## 電子音について

- 正しい操作をしたときは、「ピッ」と鳴ります。
- 誤った操作をしたときは、「ピッピッ」または「ピッピッピッピッ」と鳴ります。
- 糸がからむなどしてミシンがロックしたときは、ミシンが自動的に停止し、「ピッピッピッ・・・」と4秒間鳴ります。必ずロックした原因を確認して改善してから、再開してください。

### ■ 誤った操作で電子音が鳴るときの対処のしかた

- 「ピッピッ」または「ピッピッピッピッ」と鳴るときは、次の項目を点検してください。
  - ぬうときに押えレバーを下げていますか？
  - 下糸巻き軸は左側になっていますか？
  - フットコントローラーを取り付けた状態で、スタート/ストップスイッチを押していませんか？
  - 針板カバーを正しく取り付けていますか？
- ミシンがロックして停止したときは、次の項目の確認と対処をしてください。
  - 糸がからんだときは、かまの掃除をして、からまった糸を取り除きます。掃除が終わったら、かまを正しくセットします。
  - 針が折れたり曲がったりしているときは、新しい針に交換します。
  - 上糸を正しくかけ直します。また、下糸を正しくセットします。
- 電子音が鳴り続けミシンが動かないときは、ミシン本体またはフットコントローラー（接続している場合）が故障していることが考えられます。お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にお問い合わせください。

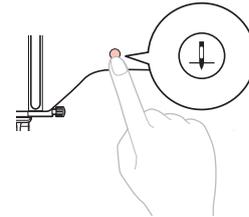
## 設定を変更する

### ■ 針停止位置の切り替え

ぬい終えたときの針停止位置を上から下に変更できます。

- 1 ④（はり上/下スイッチ）を長押し（3秒）します。

→ ブザーが2回鳴り、針の停止位置が下に切り替わります。



#### 📄 お知らせ

- もう一度同じ操作をすると、ブザーが1回鳴り、針の停止位置は上に戻ります。

# 仕様

項目	仕様
本体寸法	41.9 cm (幅) × 19.7 cm (奥行) × 30.7 cm (高さ)
製品質量	6.2 kg
ぬい速度	毎分 70 ~ 710 針
針	家庭用ミシン針 (HA × 1)
定格電圧/消費電力	100 V (50/60 Hz) / 40 W
ライト	白色 LED

\* 仕様は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

## 索引

<b>あ</b>		<b>ぬ</b>	
厚い布地	22	ぬいしろの幅をそろえる	22
<b>い</b>		ぬい目の長さ	19
糸	14	布地	14
糸切り	18	<b>の</b>	
糸こま押え	8	伸びる布地	22
糸調子	21, 28	<b>は</b>	
<b>う</b>		針	14, 15
薄い布地	22	針板	5, 29
内かま	26	針板カバー	5, 25
上糸	12, 14	針位置	5, 34
<b>お</b>		<b>ふ</b>	
送り歯	5	ファスナー	23
押え	16, 17	付属品	6
お手入れ	25	フットコントローラー	18
<b>か</b>		<b>へ</b>	
返しぬい	19	別売品	6
<b>こ</b>		<b>ほ</b>	
困ったとき	27	ポピン	8
<b>し</b>			
下糸	8		
下糸セット	10		
下糸巻き	8		
下糸巻き案内	8		
下糸を引き出す	20		
<b>す</b>			
スピード	9, 17		
スピードコントロールレバー	5		
<b>そ</b>			
掃除	25		
外かま	26		
<b>ち</b>			
直線ぬい	22		
<b>つ</b>			
筒もの	24		
<b>て</b>			
デニム	14		
電源	7		
電子音	34		
<b>に</b>			
ニット用針	14		



## アフターサービス

修理を依頼するときや部品を購入するときは、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にお問い合わせください。

### ■ 保証書について

- ご購入の際、保証書にお買い上げ日、販売店名などが記入してあるかご確認の上、販売店で受け取ってください。保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。
- 当社はこのミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低 8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理については、お買い上げの販売店、または下記の「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

### ■ お客様相談室（ミシン119番）

本製品の使い方やアフターサービスについてご不明の場合は  
お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」までお問い合わせください。

〒467-8577 愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1

お客様相談室（ミシン119番） Tel: 050-3786-1134

050（ゼロ ゴー ゼロ）で始まる電話番号です。

Fax: 052-824-3031

受付時間: 月曜日～金曜日 9:00～12:00 13:00～17:30

休業日: 土曜日、日曜日、祝日およびブラザー販売株式会社の休日

- お客様相談室（ミシン119番）は、ブラザー販売株式会社が運営しています。
- 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。  
ミシン背面の定格ハリマーク（銀色シール）の下記部分をご確認ください。



- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「お客様相談室（ミシン119番）」にご連絡ください。
- 上記の電話番号、住所および受付時間は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

### ■ ホームページ

ブラザーのホームページでは、製品に関する様々な情報を掲載しております。

<http://www.brother.co.jp/>

弊社サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）では、製品に関するサポート情報を掲載しております。

<http://s.brother/cpjam/>



Brother SupportCenterは、ブラザー製品のサポート情報（取扱説明ビデオやよくあるご質問など）を提供するモバイルアプリです。ダウンロードするにはApp StoreまたはGoogle Play™にアクセスしてください。

